

<きゅうり（施設栽培）>

- ・「おおさかアグリメール」で配信している、年間の主な作業を掲載しています。（気候条件等で前後することがあります。生育状況に応じて管理してください。）
- ・病害虫の発生は栽培ほ場の状況を良く観察し、毎月の病害虫発生情報は <https://www.pref.osaka.lg.jp/ol20090/nosei/byogaicyu/index.html> を参照してください。
- ・防除薬剤は『大阪府農作物病害虫防除指針 https://www.pref.osaka.lg.jp/ol20090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html を参照してください。

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月																							
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																								
施設（抑制）																は種	接ぎ木	育苗管理	定植	かん水	整枝	かん水	摘芯	病害虫防除	収穫	つる管理	追肥	病害虫防除	つる管理	摘芯・摘葉	病害虫防除																										
管理作業																			【は種】 ▼穂木は定植予定の22-25日前、台木は穂木の2、3日後に種をまきます。 ▼は種後、穂木が本葉1枚、台木は本葉が見えかけた頃が呼び接ぎの適期です。 ▼苗の水分が多いと接ぎ木後の活着が悪いので、接ぎ木前はかん水を控えます。			【接ぎ木】 ▼接ぎ木後1、2日は遮光し活着を促します。 ▼苗床では、アブラムシ類の発生に特に注意しましょう。			【かん水】 ▼生育初期は株元を中心にチューブでかん水し、うね間かん水は避けましょう。			【整枝】 ▼5-6節（約30cmの高さ）までに発生した子づるや幼果はすべて摘み取ります。 ▼古葉、病葉や混んでいる葉を摘み、採光と通風に努めましょう。 ▼主枝は目の高さで先端を摘みとると、作業性、収量性が高まります。			【かん水】 ▼かん水不足は曲がり果や尻細果の原因になり、病気の発生を助長するので注意しましょう。また、うね間かん水は避けます。			【摘芯】 ▼摘芯は子づる・勢いの強い孫づるの1、2節で先端を摘みとります。伸びすぎた枝を大きく切り戻すと草勢が低下するので、先端部のみを摘み取ります。 ▼古葉・病葉や混んでいる葉を摘み、採光と通風に努めましょう。			【病害虫防除】 ▼アブラムシ類、ウリノメイガ、アザミウマ類、コナジラミ類、うどんこ病等の発生に注意しましょう。			【つる管理】 ▼子づるの誘引は無理に上部に引き上げず、少したわませながら弧を描くようなイメージで行うと、草勢をコントロールしやすくなります。			【追肥】 ▼収量が増え株に負担がかかる頃なので、追肥の時期を逃さないようにしましょう。			【病害虫防除】 ▼コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ類、うどんこ病、べと病、褐斑病、菌核病の発生に注意しましょう。			【つる管理】 ▼栽培後半も収量の安定する品種は11月中旬まで摘芯を行いますが、初期収量主体の品種は孫づるを放任します。			【摘芯・摘葉】 ▼草勢が低下し、側枝の発生が少なくなったら摘芯を控え、古葉・病葉を中心にこまめに取り除きましょう。 ▼ネットの上部でつるが混み合ってきたら、切らずにつるの先端を下向きにします。			【病害虫防除】 ▼灰色かび病や菌核病の発生に注意しましょう。		